

電球で高齢者見守り

ビッググローブ ビーコンを内蔵

ビッググローブは9月、家庭のトイレや居間の照明の点灯時間を検知する見守りサービスの実験を始める。あらゆるモノがネットにつながる「IoT」のサービスで、クラウドに点灯データを送れる発光ダイオード(LED)電球を活用、長く点灯したままの場合などに家族にメールする。リフォーム会社と実験、年内にもサービスを始め1年間で1万世帯への導入をめざす。

長時間の点灯 ▼ 家族へメール

ソフトウェア開発のボクシーズ(東京・千代田)が開発したLED電球を使う。距離の短い無線を発するビーコンと呼ぶ端末を内蔵し、高齢者が電気をオン・オフした情報や、点灯時間の情報を発信する。

情報はビッググローブが開発した小型機器「BL-01」が受信し、携帯電話網を介してクラウドに集める。機器は米グーグルのスマートフォン(スマホ)用基本ソフト

のAndroidを搭載しており、様々な機能を持つアプリを取り込める。LED電球をトイレに取り付けると、電気が24時間以上つかない場合などに、あらかじめ登録した家族にメールが届く。家族は居住者が室内のどこかで転倒して動けなくなっている可能性があるかと判断して電話をかけたリ訪問したりできる。

電球を取り付けて近くに小型機器を置くだけで、設置工事は不要。初期設定を済ませて納入する。そのため、高齢者でもすぐ使いこなせる。高齢者の見守りサービスは様々な企業が参入している。ただ、監視カメラを使ったサービスには抵抗感を訴える声があった。人感センサーを活用する例では風になびくカーテンやペットを誤検知する例があるなど精度の面で課題が残るといふ。

段差の解消や手すりの設置など高齢者向け改裝を得意とするリフォーム業者のユニバーサルスペース(横浜市)と、9月から実証実験に取り掛かる。効果を検証し、課題を解決して年内のサービス開始をめざす。

ビッググローブとボクシーズは見守りサービスに必要な機器やクラウドなどを開発・提供し、サービスの販売は当初はユニバーサルスペースが担う。ほかのリフォーム会社などにも販売先を広げる。高齢の親と離れて暮らす子世帯のほか、介護事業者や高齢者向けマンションの建設・運営会社、自治体や町内会による地域単位での導入など幅広い需要を狙う。料金はLED電球を1個見守る場合で電球代や機器代などの初期費用が3万4800円(税別)。通信費を含む月額料金が1700円(同)。

同社はインターネットの接続サービス会社だが競争が激しく、企業のサイトへのサイバー攻撃の対策サービスや、ゲームアプリの始め方を利用者の自宅で教えるサービスなども手がけている。(大和田尚孝)

【見守り通知】ライトが長時間点灯しています。

田中様

「つながるライト」が設定時間を超え、長時間点灯中です。ID:06ddced1、山田太郎様の安否確認をお願いします。

場所 : お風呂
日付 : 08/22
点灯時間 : 00時間01分

山田太郎様ご連絡先
TEL:09011111111



電気が長時間ついたままなどの場合、小型機器「BL-01」(写真下)を介してクラウドにデータが送られ、家族にメールが届く